

## 指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成27年度)

施設の名称	宮城県岩出山牧場
指定管理者の名称	公益社団法人みやぎ農業振興公社
施設所管部課(室)	農林水産部 畜産課

## 1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
～ 平成18年3月	管理委託	社団法人 宮城県農業公社	
平成18年4月 ～ 平成21年3月	指定管理者	社団法人 宮城県農業公社	期間3年
平成21年4月 ～ 平成26年3月	指定管理者	公益社団法人 みやぎ農業振興公社	期間5年
平成26年4月 ～ 平成31年3月	指定管理者	公益社団法人 みやぎ農業振興公社	期間5年

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

## 2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	公益社団法人 みやぎ農業振興公社
	所在地	仙台市青葉区堤通雨宮町4-17(宮城県仙台合同庁舎内)
指 定 期 間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

## 3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県岩出山牧場	
所在地	宮城県大崎市岩出山, 加美郡加美町	
設置年月	昭和46年5月	
根拠条例等	公共育成牧場条例(昭和46年条例第19号)	
設置目的	県有牛の飼養管理, 肉用牛集団育種推進事業における産肉能力検定事業, 乳用牛及び肉用牛の預託育成事業	
施設の内容	敷地面積	1,444,000 m <sup>2</sup>
	構造	放牧地, 植林地, 事務所・畜舎等の建物26棟, 工作物 ほか
施設の内容	内容	・放牧地 812,000 m <sup>2</sup> ・建物敷地 30,000 m <sup>2</sup> ・その他(植林地等) 602,000 m <sup>2</sup> ・主たる建物(事務所1棟, 事業用建物その他15棟, 宿舍1棟) ・工作物 サイロ3基(タワー2基, パンカー1基)
	開館(所)日	
開館(所)時間	午前8時30分 ～ 午後5時15分	
指定管理者が行う業務の範囲	1 施設全体の管理運営業務 施設全体の運営マネジメント業務, 施設の総務・経理業務, 施設・機械・設備の維持管理業務(除草, 除雪等含む), 草地管理業務, 衛生・防疫管理業務(環境整備等含む)ほか 2 事業実施に関する業務 (1)預託事業(施設の使用許可, 預託牛募集に関する業務, 預託牛の飼養管理業務等) (2)県有牛飼養管理業務 (3)種付業務(県有牛への種付業務, 預託牛への種付業務, 人工授精用精液の管理等) (4)検定業務(直接検定)	
利用料金制	採用の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	牧場使用料, 人工授精料

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
開館(所)日数	365 日	365 日	365 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	80 人	67 人	108 人	135.0%	161.2%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
牧場案内	50 人	50 人	95 人	190.0%	190.0%
実務研修生	人	0 人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
預託利用者	30 人	17 人	13 人	43.3%	76.5%
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	80 人	67 人	108 人	135.0%	161.2%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
県指定管理料	76,197	76,197	76,197	100.0%	100.0%
利用料金収入	4,711	4,660	3,581	76.0%	76.8%
その他		203	1,215	#DIV/0!	598.5%
収入計 (a)	80,908	81,060	80,993	100.1%	99.9%

(2) 支出

人件費	42,370	36,918	34,132	80.6%	92.5%
施設管理費	11,780	14,190	14,193	120.5%	100.0%
事業運営費	27,397	31,281	31,206	113.9%	99.8%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支出計 (b)	81,547	82,389	79,531	97.5%	96.5%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	-639	-1,329	1,462	-228.8%	-110.0%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成27年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	県内肉用牛飼養農家の経営安定と所得向上のため事業を実施し、牧場の管理運営に努めた。 各種研修会に積極的に参加し、職員の資質や能力向上を図った。		県畜産課、畜産試験場及び各関係機関と連携し、県内酪農・肉用牛飼養農家の経営安定と所得向上に資するため、預託事業や産肉能力検定事業等において、経済性の高い種畜改良等が円滑に進められるよう県営牧場の管理に万全を期した。		A	施設全体のマネジメントとして総務・経理業務、施設・機械・設備の維持管理業務を含む各種業務を実施し、適正な体制により県営牧場の管理に万全を期した。	A
人員体制	正規 4人	非正規 4人					
②施設・設備の維持管理業務の実施	各施設及び機械の状況を把握し、日常点検の実施と定期点検や潤滑油の交換等に努めた。		施設及び機械の老朽化が進行しているが、職員の創意工夫により効率的な活用が図られた。また、日々の使用点検の徹底を図った。さらに、作業機械のロールペラ、トラクター、ディスクモア、ブロードキャスターを更新した。		A	施設や作業機械の老朽化が進む状況の中、トラクター等の点検整備や修理を行い、作業機械の適正な維持管理に努め、日々の作業の安全と効率を確保している。	A
③運營業務(ソフト事業等)の実施	県畜産課、畜産試験場、獣医師の指導を受け、衛生・防疫管理に努めた。 巡視の徹底と疾病等の早期発見に努め子牛牛舎の冬季間の保温対策や環境改善を図った。		県畜産課、畜産試験場及び獣医師の指導により、職員一丸となり疾病等の防止に取り組んだ。		A	家畜保健衛生所、畜産試験場、獣医師の指導の下、適正な衛生・防疫管理に努めた。特に疾病対策に力を入れ、生産子牛の疾病頭数が年々減少傾向にある。病性鑑定に至った事案についても、時点毎に必要な処置を行っており評価できる。	A
④自主事業の実施	農家からの「非放牧期間(11月～3月)」に係る預託希望に応えるため周年で預託牛の受入を実施した。		放牧出来ない期間に付いても、舎飼いによる周年利用を希望する利用者が多いことから、11月1日から3月31日までを「周年預託期間」と位置付け、年間を通しての預託事業を実施した。		A	非放牧期間の預託を受け付けない牧場がある中、農家のニーズに合わせた対応を行っており評価できる。	A
⑤利用者サービスの向上	預託者、直検牛飼養者、来訪者等へ牧場事業の説明を行い理解に努めた。		視察研修者の模範となる飼養管理技術の向上と施設の衛生管理及び防疫上の衛生対策が徹底出来た。		A	預託者や見学者等へ対応、及び県営牧場の事業説明等が的確に実施されたものであり、利用者のニーズに依っている。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	預託事業者の預託者に対するアンケートを実施した。 その中で牧場に対する要望等については①妊娠牛でも下牧時に再度妊娠鑑定をして欲しい。 ②県外の種を付けて欲しい等であった。		預託事業内容については、預託者は全体的に現状で満足しており、これからもお願いしたいとのことであった。また、要望のあった①については、必要に応じ利用者へ獣医師から説明することで理解を頂いた。②は、県営牧場である旨を利用者に説明し、理解を頂いた。		A	主な利用者である預託事業の預託者に対するアンケートを実施。利用者の意見・要望等を把握するとともに、施設管理者として施設利用者に対して適宜説明を行い、改善できる部分については見直しを行っている。	A
⑦安全対策	労働災害防止の研修会を実施した。		労働災害防止の研修会は今年度も実施しており、日常的にも喚起しているため安全に対する意識は高くなった。 畜産試験場や家畜保健衛生所の指導のもと、牛の病気予防のための消毒に対する職員の意識はより高くなった。		A	労働災害防止に係る研修会の実施や日常作業における安全意識の徹底など、防疫のために必要な消毒体制、場内の安全点検等が適正に行われた。 (防疫対策として牛舎専用長靴の設置なども実践している。)	A
⑧県民の平等利用	預託事業については、県内の畜産農家を対象に受け入れた。 利用者、視察者、研修者に対し、牧場事業、施設等を適切に説明し、平等利用を図った。		利用者、視察者、研修者からは、牧場事業、職員の対応について、高い評価を得た。		A	震災後の困難な状況において、預託事業についてよく検討の上実施した。 また、広く視察者、研修生の受け入れを行い、平等利用に努めている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	個人情報保護規程に基づき、個人情報の適正な管理を実施した。	特に問題も生じておらず、個人情報の保護が図られた。	A	個人情報保護規程に基づき、適正に個人情報の保護が図られた。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり。	預託事業に係る放牧地除染は完了しているが、モニタリング検査の継続により、引き続き舎内飼育可能な頭数での実施となった。	A	震災後の困難な状況において、周年預託事業の実績を重ねていることについては評価できる。	A
⑪収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおり。	人工哺育技術の向上により、子牛の市場評価が高く販売価格も向上した。また、預託事業等の各種事業で効率的な飼養管理が出来た。	A	適正な管理運営など種々の改善により収支状況が向上していることは評価できる。	A
⑫その他の取組	再生紙(コピー用紙)の利用、節水、節電 場内道路脇草刈り、側溝清掃、堆肥の農地還元、廃油のパンクリーナー等への潤滑油としての再利用等環境配慮に努めた。	環境配慮については常に意識し、計画通り実施した。	A	環境に配慮した再利用、節減への取り組みは、高く評価できる。	A
総合評価		地域住民からの苦情等もなく、施設及び作業機械の維持管理に努め、預託牛・県有肉用牛の飼養管理を適正に実施した。検定業務においては、平成29年全国和牛能力共進会宮城大会を意識した業務遂行を行った。また、冬期間の死亡牛運搬における保管施設までの除雪を行い、搬入路の確保に努めた。さらに、市場での子牛の評価も上がっている。	A	施設及び附帯設備並びに物品の維持管理、預託牛の飼養管理、県所有肉用牛の飼養管理並びに検定業務等、全般的に適正な管理運営がなされた。利用料金制に係る事務処理についても適切な処理がなされている。また、除染後の放牧再開に向けた試験事業等においては常に協力的な姿勢で取り組むなど大いに評価できる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	施設・機械の老朽化に伴う更新整備、繁殖基礎雌牛の更新が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖基礎雌牛の更新について</li> <li>預託放牧の再開における受入態勢の見直し</li> <li>施設及び農業機械の老朽化に伴う修繕・更新</li> </ul>

## 5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

【自主事業】

(1) 収入 (単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前年度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
県指定管理料				#DIV/0!	#DIV/0!
利用料金収入	4,711	4,660	3,581	76.0%	76.8%
その他		0	803	#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	4,711	4,660	4,384	93.1%	94.1%

(2) 支出

人件費	2,017	1,930	1,866	92.5%	96.7%
施設管理費		0	894	#DIV/0!	#DIV/0!
事業運営費	1,287	1,410	1,336	103.8%	94.8%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支出計 (b)	3,304	3,340	4,096	124.0%	122.6%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	1,407	1,320	288	20.5%	21.8%
前期繰越収支差額		0		#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額		0		#DIV/0!	#DIV/0!